



## 塩田跡人工林の謎

大貝秀雄

赤穂市城南緑地（通称グリーンベルト）は、塩田跡埋立地の臨海工業地域と住居地域を区分する目的で設けられた、幅50～100m全長4Kmの種々の常緑樹から成る人工林である。このように純粋な人工林における昆虫相の変遷は興味ある研究課題であるが、1976年11月の事業完成の後17年を経過した現在では、この地方の普通の二次林と差程違いのない多種の昆虫が既に定着しているようである。ところが驚くべきことには、赤穂市内では他の産地を全く知らないホシミスジとネアカヤンマが、少なくとも1991年以前からここに生息していたのである。特にネアカヨシヤンマは、毎年少なからぬ未熟成熟個体が確認されているにもかかわらず、幼虫の発生地となり得る池や湿地が緑地内には存在しない。赤穂城跡の堀で発生している可能性もあると見て調べているものの、未だ証拠はつかめず謎に つつまれている。